

マネー収縮へ、マーケットをよむ勘所

国際金融マーケット研究家 豊島逸夫

- * 続発する金融異変の背景
 - * メルトダウンする仮想通貨
 - * エンロン事件と似た構図
 - * リセッションに向かうアメリカ経済
 - * パウエルFRB議長のトラウマ
 - * 乱高下が続く株式市場
 - * 金利動向で揺れるドル・円
 - * 2023年もアメリカは高金利が持続
 - * 中国経済の注目点は二つ
- ※ここからの金投資のポイント



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ここ最近、毎年1回豊島さんにおいていただいております。豊島さんは1948年のお生まれで、三菱銀行からスイス銀行へ行かれ、国際金融でディーラーに携わったわけでございます。その後、ゴールド・カウンシルの日本代表をされ、今はフリーな立場でさまざまなファンドのアドバイザーとかをされておられます。マーケットにある意味中立的な目で公平に判断されるというのには、企業に勤めていらっしゃる方にはちょっと難しいということがございますので、われわれは豊島さんのご意見に非常に信頼を置いてお呼びしているわけでございます。

今日も相場がたいへん荒れておりますし、為替、株式その他がこれからどうなっていくのか、

どういふふうにご読んだらいいかというところを今日はざぱり、お話を伺いたいと思います。それでは豊島さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

続発する金融異変の背景

豊島 こんにちは、豊島逸夫です。1年ぶりですが、いやいや、まだ続いておりますけれども、この1年、えらい年でした。私も今ご紹介いただいたように48年生まれで今年74で、いよいよ来年は75歳になるので、やっぱり結構しんどいですけれども、ニューヨークともう毎晩のように、夜中の2時、3時に、コロナが始まってからはZoomで、やれ円安はどうなる、株はどうなるという話をしています。ニューヨーク